

きよみ通信

発行日：平成22年8月20日・発行：キヨタ株式会社

“住宅改修の出張勉強会”を開催します。

弊社は、介護保険制度開始以前から高齢者、障がい者の住宅改修に取り組んでおり、制度開始後は福祉用具を併用した快適な住宅環境をお客様に提供しています。

今回は、弊社とお取引のあるお客様にこれまでに私どもが蓄積してまいりました経験や知識を活かし、理学療法士・介護支援専門員等介護に係る皆様に“住宅改修”への理解を深めていただくための出張勉強会を開催します。多数のお申し込みをお待ちしています。

出張勉強会について

テーマ：「住宅改修の基礎」(仮称)

内容例： 介護保険対象の住宅改修の項目、 設計図面の記号とその意味、住宅改修事例の説明等

所要時間：2時間以内(質疑応答を含む)

お客様のご要望に応じて、弊社にてテーマ及び内容等を準備します。

申し込みにあたってのお願い

問い合わせは、福祉住環境事業部 担当 松本 裕まで

電話番号：03-5440-0888(キヨタ港店内)

FAX番号：03-5440-5530(同上)

出張勉強会のご要望をお聞きし、準備を要するため、開催日の2ヶ月前にお申し込みください。なお、複数のお申し込みがあった場合は、開催日の変更をお願いする場合がありますので、予めご了承ください。

資料は弊社で準備し、当日に資料を配付しますが、パソコン・プロジェクターがありましたら、ご準備ください。

担当：松本 裕



資格：1級建築士、福祉住環境コーディネーター1級、福祉用具専門相談員

経歴：大学卒業後20年間、建築設計事務所で多数の住宅設計・工事監理を手がけてきました。その豊富な経験を生かし、平成15年8月に入社し、約1,300件のご高齢の方、障害をお持ちの方、またそのご家族のお住まいをより安全で快適な暮らしの場へとするため、真心を込めてプラン設計、施工監理をしてまいりました。当社の豊富な実績・事例をもとに、わかりやすい内容で、皆様の住宅改修に関する知識習得のお役に立てればと存じます。

今号より、要支援及び要介護（1及び2程度）認定の利用者向け住宅改修を行い、併せて福祉用具を活用することで、ご利用者の日常生活動作が向上した事例を取り上げます。第1回は、浴室周辺の住宅改修事例（福祉用具の併用）を紹介します。

住宅改修事例～浴室まわり～

お客様のご要望

浴室に段差があるため、出入を安全にしたい。
浴槽が高いため、浴槽への出入りを安全に行いたい。

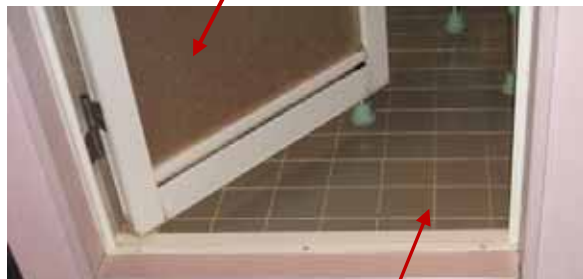
ご本人の状況

墨田区在住 78歳・女性
改修時の介護度：要介護3（脳梗塞による左半身不全麻痺） 現在の介護度：要介護1
当時の室内移動は、歩行器と四点杖を状況に合わせて交互に利用、特殊寝台を利用して寝起きをし、日中はトイレ、夜間はポータブルトイレを使用し、つかまるところがあれば、歩行が可能でした。また、入浴は家族が一部介助していました。

【改修前】

【浴室入口、右側に浴槽が設置されている。】

【浴槽の壁面側】



改修前の浴室の扉は開戸でした。

浴室に入るには、約7センチの段差があり、安全な出入り動作を確保するためには、ご利用者様にとって弊害となっていました。



工期及び自己負担

工事及び用品購入は介護保険の対象です。
工事：手すり3本設置、折戸への交換
工期：1日 / 本人負担：約1万3千円
福祉用具：すのこ、バスボードを購入
すのこはオーダーメイドのため、製作日数10日 / 本人負担：約5千円

北嶋店長の工事のポイント

脳梗塞の後遺症により左半身不全麻痺のため、すり足歩行やふらつき、動作が見られたので、段差につまずきバランスを崩して転倒することがないようにご利用者様の動作を理学療法士と確認し、住宅環境の改善を図りました。



【改修後】

一部介助が必要なため、介助スペースを確保するために、開戸から折戸へ交換しました。



浴室へ出入りする際に体を保持する目的で、手すりを設置しました。



ポリスチレン製の軽くて丈夫な“すのこ”。すのこは、浴室への出入りの際につまずきを防ぐとともに、浴槽との高さも軽減され、バスボードへ安心して腰が掛けられるようにもなりました。

浴槽内の立ち座り、バスボードに乗ってからの体位の方向転換を安定させるために浴槽の壁側に手すりを設置しました。



お客様の感想

すのこで段差が解消され、手すりがついたことで安全に浴室へ出入りすることができるようになりました。また、浴室床面がかさ上げされた事で足が宙に浮くことなく安全にバスボードへ腰を掛けられ、安心して浴槽へ入れるようになりました。

身長に対して浴槽が高かったため、床にしっかりと足がつくように薄型のバスボードを採用しました。



福祉用具の紹介

バスボード

【商品説明】

バスボードは、浴槽をまたいで入るのに不安のある利用者へ、座ったままの姿勢で浴槽の出入りを安全に行うための福祉用具です。商品選定のポイントは、以下の5点です。

- なるべく軽量なもの。
- 回転や移乗動作の行いやすいもの。
- 浴槽への着脱がしやすいもの。
- お手入れがしやすいもの。
- グリップが滑りにくいもの。



背なし・背付きシャワーベンチ



(背なしシャワーベンチ)



(背付きシャワーベンチ)

【商品説明】

シャワーベンチは、利用者の身体状況及び浴室の規模を考慮して選択ください。

特に身体状況で考慮しなければならないことは、ご本人が姿勢の保持ができるか、できないかベンチからの立ち座りの動作ができるか、できないかの2点です。

ご本人が姿勢の保持ができる状態であれば、背なしのシャワーベンチで十分に対応できます。一方、長い時間、姿勢の保持ができないようであれば、背付きシャワーベンチがお勧めです。

また、姿勢の保持ができないことに加え、立ち座りの動作に不安がある場合は、肘掛け付シャワーベンチがお勧めです。

また、上記の条件に浴室の洗い場の大きさを考慮してください。